

「中部圏のイノベーション活性化に向けて 2019」

「新イノベーション拠点」

中経連は3月25日(月)に開催した総合政策会議において、イノベーション委員会(委員長:竹中副会長、共同委員長:安形副会長)にて取りまとめた報告書「中部圏のイノベーション活性化に向けて 2019」および「新イノベーション拠点」について報告し、公表した。概要は以下のとおり。

1. 2018年度の主な活動の進捗

中部圏では、イノベーションが起こりにくい背景として、以下の6つの課題がある。

- ① 危機感が薄い
- ② 対流・交流の機能が不足
- ③ IT関連事業者・ベンチャー企業が少ない
- ④ 新規事業開発を行い、失敗できる場が不足
- ⑤ 新規事業開発やIT人材が不足、育成機能が弱い
- ⑥ 今ある仕組みは推進力が弱い

これら課題への部分的対応(①～④)として、中部圏イノベーション促進プログラムを2018年5月に開始した。プログラムでは、競争環境の変化、新しいビジネスモデルの代表事例や考え方等を主題とした講演会(フューチャーコンパス)、異分野融合による共創を通じて、「イノベーションドライバー」を育成し、ネットワークをつなげていく取り組み(ビヨンドザボーダー)、新規事業や新産業の社会実装支援(ドメインプロジェクト)を実施。2018年12月にはビヨンドザボーダー第1クール26名が受講を終えるとともに、2019年3月から第2クール25名が新たな仲間とともに挑戦を開始した。



▲ビヨンドザボーダー第1クールでのワークショップの様子

◀疑似通貨とブロックを用いた事業シミュレーション

2. 対応すべき重要なテーマ

前項に記載の6つの課題のうち、「⑤新規事業開発やIT人材が不足、育成機能が弱い」と「⑥今ある仕組みは推進力が弱い」については、有識者との意見交換会等を踏まえ、以下の3テーマで活動を推進する。

- (1) イノベーション拠点の整備
- (2) 中部圏イノベーション促進プログラムの充実
- (3) 起業家、新規事業開発人材ならびに新しいタイプのIT人材の育成

3. 2019年度の主な活動の予定

2019年7月、名古屋市栄ナディアパークにイノベーション拠点を開設する。イノベーションビッグバンを誘発するための対流・交流拠点の機能のほか、中部圏におけるイノベーション拠点のハブ的諸活動や、国内外からのゲートウェイとしての役割を担う。拠点では、中部圏イノベーション促進プログラムのほか、起業家や起業家を目指す人たちと、大企業やCVC(コーポレートベンチャーキャピタル)の交流会、大学の研究者と出口パートナーとのマッチング、社会人を対象とした学び直しのプログラムなどを開催し、イノベーションに関わるすべてのステークホルダーが集う仕掛けにより、残された課題への対応と中部圏のイノベーションを触発し続けていく。



中部圏イノベーション拠点(仮称)

【問い合わせ:イノベーション推進部】

報告書の詳細につきましては、中経連ホームページ (<http://www.chukeiren.or.jp/>) をご覧ください